千葉県
訪問看護ステーション
連絡協議会　広報

菜の花　投稿用紙

会員参加型の会報誌を目指しています。
どのような記事でもかまいませんので、
お気軽に広報担当までお寄せください。
郵送でもＦＡＸでも受け付けています。

〒272－0135　千葉県市川市日之出17－9アルテ1F　訪問看護ステーションゆうこう（広報担当宛）
TEL　047－397－7600　　FAX　047－397－7601

千葉県訪問看護ステーション
連絡協議会　広報

菜の花

第11号

発行日：平成２０年１１月１５日
発行所：千葉県訪問看護ステーション連絡協議会
発行責任者：会長　佐野　けさ美

INDEX

●訪問看護の「見える化」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～2
千葉県訪問看護ステーション連絡協議会
会長　　佐野　けさ美
●ステーションMAP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
●研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
多古町訪問看護ステーション
●ステーション紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～9
亀田訪問看護ステーション館山／南柏老人訪問看護ステーション／
さくら風の村訪問看護ステーション／辰巳訪問看護ステーション／
緑ヶ丘訪問看護ステーション／
●がん患者・家族総合支援センターが開設し開所式に参加しました・・・・・・・・・9
さぎぬま訪問看護ステーション
●編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

訪問看護の「見える化」

千葉県訪問看護ステーション連絡協議会
会長　　佐野けさ美
（みやのぎ訪問看護ステーション）

「看護の展開」とは言いつつ、看護を見ることはいまだ出来ていません。
特に在宅を訪問する訪問看護では、「見える化」が困難とあきらめかけていました。しかし、看護の評価、効果を正しく、等しく周知する為には必要なものだと考えます。

東京大学の医療工学を専攻されている水流先生という方がいます。病院内の看護展開をIT化し、すでにたくさんのバージョンで作っています。長野県ではモデル事業もされています。訪問看護における「見える化」の手段として、ＩＴを利用した展開図を作ることが出来るかもしれない。

訪問看護ステーションでＩＴが活用された利用方法は以下の役割があったと思います。

質の向上・安全の担保
コスト削減
患者満足度と連携強化
業務の効率化
売り上げ、集客力アップ
セキュリテイ強化

「走りながら考える」介護保険が施行され、訪問看護ステーションにおいてもIT化が進んでいますが、業務先行型で、本来看護が行っている内容を表示できているソフトの開発が進んでいなかったと思います。一番必要だった看護展開が抜けていたのではないでしょうか。

先日、アメリカの訪問看護視察旅行に行って来ました。訪問看護の使命は何かという問いの中で、「利用者が安全にどこでも安心な医療を受けることが出来ること。」と、アメリカ医療全体の中の役割は「在院日数の短縮」「入退院の適正化」でした。

ほとんどの病院は外来機能を持ちません。病院医師は各自のオフィスを持って仕事をしつつ、病院の医師としての役割を勤めています。テレビドラマで有名な「ER」でも緊急患者の受け入れが殺到し、逼迫した状態を延々と放映していました。それがアメリカの現実でした。いかに在院日数を減らし、高い医療費を払わないで良いように入院生活を送り、安心して自宅で医療が受けられるかが最重要課題です。

訪問看護ステーションの優劣は、*在宅患者が適切な医療を提供されるか。入退院を繰り返すような支援を行っていないか。*などが*重要な評価であり、利用者の選定基準*になるわけです。

アメリカではケアマネジャーはすべて RN といわれる、いわゆる正看護師です。

例えば、この患者のこの病名には２ヶ月で 17 万円。などと定められていて、プランの中で医療、福祉すべてが 17 万円と定められた金額で賄われていきます。ケアマネジャーの責任は重大です。もし、悪化したり、入院を余儀なくされる場合の評価は、チーム全体が受け、評価は下がります。実施した行為や、アセスメント、考えた内容、エビデンスは全て記載することになっていて、患者の病態変化と相応するように横軸に時間、縦軸に処置、経過などが入るIT の画面で確認できるようになっています。微熱があり、感染の疑いがあるのに、看護や福祉が早急な対応をとることなく経過した状態が観察され、再入院にいたった場合は目で見て皆が確認しているのでその評価は逃れようがありません。

また、「2ヶ月で 17 万円」のような評価時期がありますので、日本の訪問看護報酬のような、「時間いくら」の考え方ではありません。患者の病状、病態の評価や満足度が絶対評価となっています。訪問看護の回数は適切にｺﾝﾄﾛｰﾙすることが訪問看護事業者の義務になります。したがって、訪問回数を最低限に適切に減少させ、訪問看護師が訪問しない日の患者の病状を把握し、病状の変化にすばやく対応することが求められています。

日本とのそのような考え方の違いは、在宅モニター機器開発に最も力を入れていたことです。体重、水分、血糖などのバイタルサインをモニターし、訪問看護ステーションの管理システムに電子媒体を通してモニタリング監視させ、監視専門看護師がモニターし、判断と指令を出していることでした。褥瘡にいたっては、看護師が自ら訪問して処置をしないで治療を行う低圧持続吸引法などの機器を用いて、専門看護師によって実施されていました。

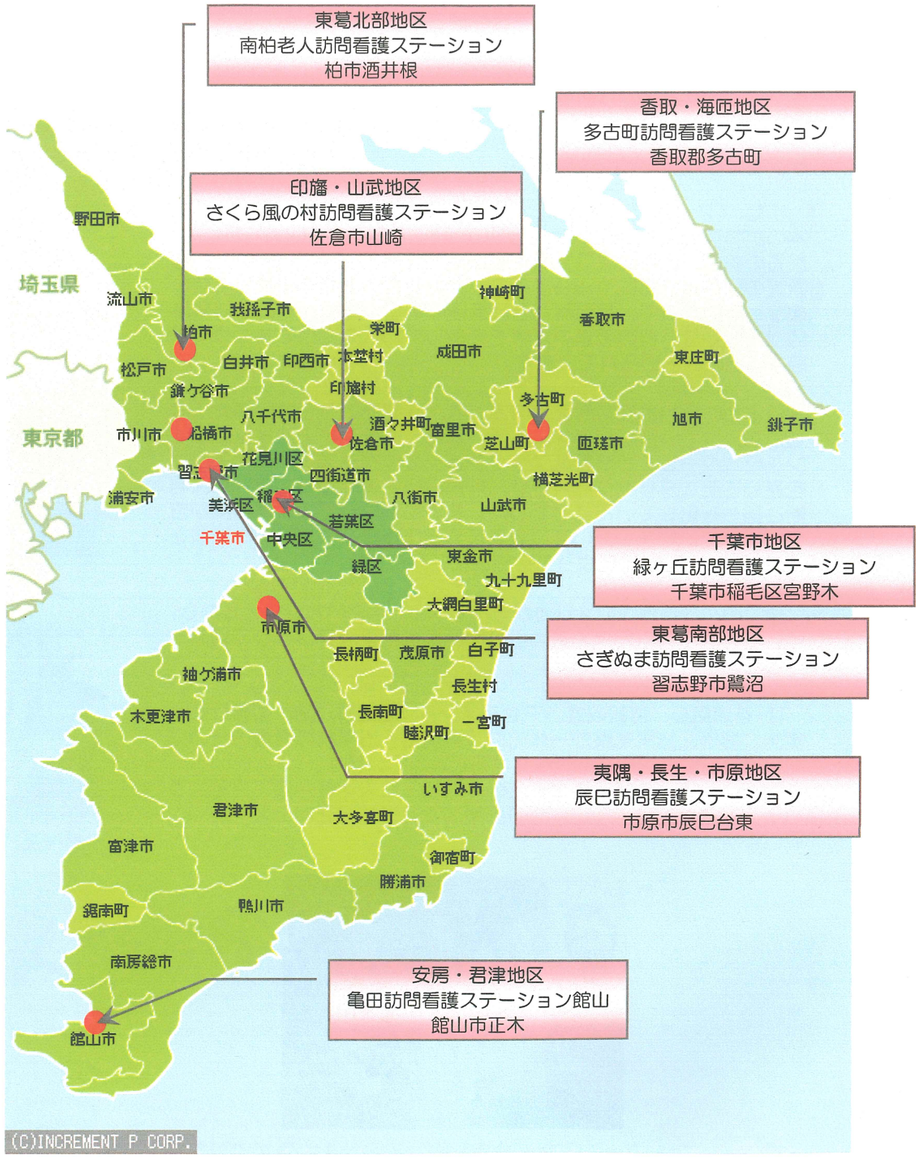
全ての訪問看護がアメリカが優れているとは思いません。しかし、日本の看護への期待や、求められる評価と結果はプロとして見習うべきものがありました。

IT を活用し、情報収集、アセスメント、課題解決法、看護計画、実施、評価、結果考察が一体的に「可視化」出来れば看護の質の標準化はさらに飛躍的な進歩を遂げることと思います。
ただいま、東大の水流先生とその仲間たちで来年度発表できるように事業を進めています。次回の広報誌で進捗状況をお伝えできると思います。

ニューヨークでがん末期の患者訪問に同行させていただいたマリアンさんといっしょに訪問前に撮影

■ステーションMAP■

＊今回の広報に記事を投稿してくださったステーションのＭＡＰです。



香取・海匝地区

研修会報告

多古町訪問看護ステーション
大里　光枝

臨床に活かす心のケア～癒し癒されるスピリチュアルケア～（平成 20 年 5 月 24 日）
講師：大下大円氏
（飛騨千光寺／高桑内科クリニック／和歌山医科大学）

講演は土曜日の午後であったため、多くの方で会場は埋まっていました。

先生は 12 歳で出家され現在は飛騨千光寺御住職、スピリチュアルケアワーカー、音楽療養士、大学講師と多岐に渡りご活躍されており驚きと感銘を受けました。お話はテンポ良くユーモアを交えてしてくださり、とても短く感じた二時間半でした。

Spiritual＝霊的、たましい的、心性的、実存的、宗教的などの訳語。人生の意味。（WHO の定義）身体的、心理的、社会的およびスピリチュアル的に健康で力動的な状態～よく生きる。

スピリチュアルケアといえばターミナルケアと切り離しては考えられないくその言葉を耳にするようになりました。現場でのターミナルケア時、精神的ケアについては利用者、介護者の支えとなれるのか、なれているのか不安を抱きながらのケアとなり、精神的にも負担を感じることも多くありました。そして、自分たちの関わりの振り返りの意味でも、グリーフケアとまではいかなくてもケースによっては霊前訪問という形で遺族を訪問するようにもなりました。その中で「本当に助かったよ。心強かった。本人も看護師さんが来るのを楽しみにしてたよ。」等の言葉を聴くと介護者の支えになれたのだと感じることもありました。講演を聴き、故人の生前の事や療養中の思い等を傾聴する事の大切さをあらためて感じました。

先生のお話のなかでは葬儀で遺族から本人へ思いを語ってもらうこと、それが大いにグリーフケアとなる。また、グリーフワーク登山を行い高い山から大いなる景色を見ながら遺族からの希望でお経を唱えたこと等、僧侶としてのケアも心に残りました。

・スピリチュアルペインは末期だけでなく発病当時からある。
・スピリチュアルケアは身体的ケアと連動する。
・スピリチュアルケアはスタッフの共通理解が重要。
・家族のスピリチュアルペイン、ニードに配慮。（突然の死、事故、災害等）

上記を基に訪問時、目前のケアだけにとどまることなく、精神的アセスメントをより深くし医療職、訪問看護師、としての特性のあるスピリチュアルケアが出来るよう心掛け、辛い療養生活の中で少しでも癒しの時間が提供できるようになればと思います。

安房・君津地区

亀田訪問看護ステーション館山
鈴木　健一

キーンと冷えた空気の中、眼前に広がる鏡が浦に富士を望み（冬限定ですが）、訪問前の密かなお祈り。
ザザザー、ザザザーと波音をBGMに、いざ利用者宅へ。
水平線にかかる夕日を横目に、愛しのスタッフが待つ事業所へ帰る。
日々こうして、自然や四季を感じながら訪問できることに大きな喜びを得ています。

私たち「亀田訪問看護ステーション館山」はH18年６月５日に亀田ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ館山（以下KFCTとする）のopenに伴なって開設しました。

富士山（事務所前から見ることができる）

スタッフは訪問看護師４人（常勤。内１人男性）と訪問リハビリ２名（非常勤）、事務１名で、ヘルパー・ケアマネも同施設内に在席しています。
事業所が同一施設内にあることで多大なメリットがあります。それは家庭医を目指す情熱あふれる若手医師たちと、才色兼備なヘルパーとケアマネ、そしてわれら訪問大好き看護師が一堂に会することができるのです。

朝ｶﾝﾌｧ風景
（訪看・医師・ケアマネ・ヘルパー・時に栄養士も入ってのカンファ）

看護スタッフと事務とモットー

そこでは日常的に利用者さんについてのﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝが発生し、情報の共有と方針の決定等がなされています。まさに利用者さんを中心とした「チームアプローチ」が展開されています。

新規相談・依頼の殆どが同法人からですが、虚弱老人などの生活指導をはじめ、慢性疾患で落ち着いている方、医療依存度が高い方、ターミナルステージでの看取りまで、と幅広い層に対応しております。

利用者さんが、その人らしく、笑顔で、生活できるよう、頻回な臨時訪問もチームワークで乗り切り、スタッフ一同「みんなが笑顔でHAPPYステーション」をモットーに、精一杯チームで取り組んでいます。

東葛北部地区

医療法人社団　実幸会　　南柏老人訪問看護ステーション
広田　創

柏市には現在８ヶ所の訪問看護ステーションがありますが、私達の訪問看護ステーションは、平成８年６月に開設され柏市内では一番初めに立ち上げられました。柏市ではいわば‘老舗’の訪問看護ステーションです。主に柏市の南部と松戸市の南東部を訪問範囲としています。

柏市は中心部にはＪリーグの柏レイソルのサッカー場などもあり東京のベッドタウンとして開発が進んでいますが、当ステーションの周囲にはまだ畑や雑木林が広がっていたりして長閑な風景も広がっています。また柏市には国立がんセンター東病院があり、昨今はそちらを退院され終末期を在宅で過ごすために戻っていらっしゃる御利用者様の依頼も多くなりました。

スタッフは看護師５名、理学療法士３名（内非常勤１名）、ケアマネージャー１名、事務員１名の総勢１０名で頑張っています。

在宅の‘生活を看る’という訪問看護ステーションの役割を果していくには、看護師だけではとても対応できるものではなく他の職種との連携が不可欠ですが、当ステーションの場合にはＰＴやケアマネがすぐ隣に机を並べているので、色々な視点から利用者様にサービスが提供できるという点が強みです。

‘老舗’ゆえという訳ではないでしょうが、地域からの信頼も厚く、訪問看護の依頼は引きも切らない状況ですが、日々スタッフ一同頑張っています。

印旛・山武地区

さくら風の村訪問看護ステーション
相馬せつ子

はじめまして
皆様のお仲間にいれていただいて、ようやく三年目を迎えることが出来ました。

さくら風の村訪問看護ステーションは、歴史と文化の城下町・佐倉市の東部に位置し、近くには、国立歴史博物館・佐倉ふるさと広場・印旛沼などがあります。歴史博物館には、皇族の方がよく見えるようです。なぜならば、その日は市内の至るところに警察官が配置され、道路規制が厳しくなるからです。私たちは結構迷惑しています。ふるさと広場にあるオランダ風車のチューリップまつりの時は、一面色とりどりのチューリップで埋めつくされとても綺麗です。一見の価値ありです。夏には、印旛沼のほとりで花火が打ち上げられます。ステーションの屋上は、花火を見るには絶景スポットです。その日は必然的に屋上がビヤガーデンに早や変わりです。いつかの訪問の帰り、「どこから見る夕日がきれいかな？」と沈む夕日を追いかけて遠回りしたことがありました。そうしたらなんのことはない！ステーションの駐車場から見た夕日が一番きれいでした。おもわず失笑してしまいました。

ヘルパーさんや事務職の方たちと

ステーションの母体は、社会福祉法人生活クラブです。私たちは、2007年11月にオープンした「さくら風の村（福祉と医療で支える在宅総合支援センター）」の施設内で、活動しています。「さくら風の村」の事業には、訪問診療所・障害者自立支援法に基づく活動・ショートスティ・ディサービス・ケアマネジメント・ホームヘルプなどがあります。各事業所と密接に連携しながら、私たちは、ご本人やご家族との心の通い合いを大切にして、自分らしく生きようとする“人間としての尊厳”が守られるかかわりをモットーとしています。

訪問看護スタッフは、看護師４名（常勤）・事務職１名で、利用者は、約 45 名で１才の乳児から 104 才のご高齢の方まで幅広い年代層です。

看護師４名は、訪問看護をやりたいというモチベーションと情熱を持っているつもりです。無料の研修会には、特に積極的に参加して、自己研鑽を積み、質のレベルアップに努めています。現在、訪問診療所の先生が不眠不休の状況で走り回っているため訪問看護師が１ヶ月交代で、応援体制を組んでいます。診療所には、６匹の子猫がいて、「さくら・かぜ・むら・ほう・もん・しん」と順々に命名されました。私たちは、６匹の子猫にはかなり癒されています。同じフロアーには、ケアマネさん・ヘルパーさん達もいるので、総数 18 名のスタッフがひしめきあいながら頑張っています。狭いながらも楽しい我が家的な雰囲気の中で楽しい笑い声がいっぱいです。

訪問看護スタッフ

ぜひ一度、歴史と文化の城下町・佐倉に、そして、「さくら風の村」に遊びに来て下さい。

夷隅・長生・市原地区

辰巳訪問看護ステーション
木津　順子

こんにちは辰巳訪問看護ステーションです。開設 13 年の現況をご報告させていただきます。

当ステーションは平成７年 10 月に医療法人併設の訪問看護ステーションとして設立されました。市原市辰巳台地区は京葉工業地帯に働く人々の社宅団地として開発されたもので、ふるさとを遠くに持つ方々が大勢暮らしています。

先代理事長（設立者）が診療の日々の中で、地方から呼び寄せられたお年寄りが団地の狭い部屋で寂しく暮らしているのを見かけては、いつか老人の安住の場所を作ってあげたいと念願されてきたとのことです。昭和 54 年に特養を始めとして平成６年に在宅介護支援センター、平成７年に訪問看護ステーション、平成８年に老人保健施設及びヘルパーステーション、平成９年にケアハウスが設立されました。

私は開設当初より訪問看護のお手伝いをさせていただいておりますが、間もなく定年を迎えます。思い返せばあの人この人と、たくさんのパートナーと業務を共にしてきましたが、気づいたら私だけが化石のように残っていたというところです。

訪問看護をはじめて間もないころ、訪問先で利用者様に「何だ、病人を探して歩いているのか」と言われ、屈辱に泣きそうな思いをしたことがありました。「もうこの仕事なんか止めてやる」と思ったことも何度もありましたが、そのたびに利用者様の顔が浮かび、利用者様の一人一人を心からいとおしいと思えるうちはこの仕事をやらせてもらってもよいかなと思いながらつづけてくることができました。

今はただ、訪問看護への思いを後を託す人たちに伝えることができ、けじめとして幕引きがきちんとできることを願うばかりです。

辰巳訪問看護ステーションは居宅介護支援事業所としての指定も受けており、ケアマネ 2.5 名、訪問看護師 2.5 名の５名で担当しています。辰巳病院・介護相談センター内に在宅部門が集結し、１階に在宅介護支援センター（10 月に地域包括支援センターに移行）２階に訪問看護ステーションとヘルパーステーションが同居しています。

「私たち一人一人のかざす光は弱い。しかし五十人、百人がそれぞれ持分を守って社会に尽くせば、地区に明るい光が浮き出てくるのではないだろうか。琢心会は、一人一人の職員、一つ一つの施設が一隅の光でありたいと願っている。」との琢心会先代理事長の遺志を思い、現場が好きな元気な仲間達が手を携えて地域の福祉のために頑張っています。

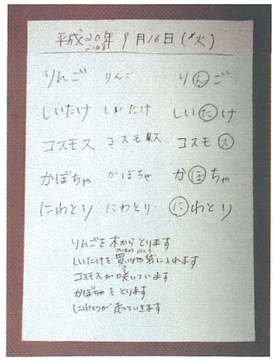
今後とも末永くどうぞよろしくお願いいたします。

千葉市地区

緑が丘訪問看護ステーション
山崎　潤子

私たち緑が丘訪問看護ステーションは、千葉市稲毛区の住宅街にある開設９年目のステーションです。

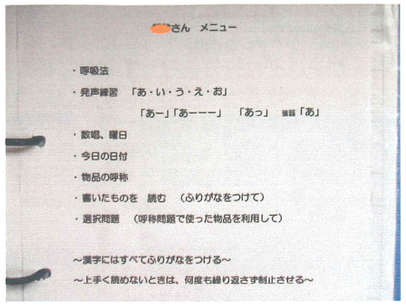
当ステーションの訪問看護では幅広い利用者さんに対応していますが、特徴を挙げるとすれば、平成 18 年より言語聴覚士が非常勤で勤務していることもあり、言語障害･嚥下障害の方の訪問看護に熱心に取り組んでいる点です。嚥下障害は脳血管疾患後の方など訪問看護の利用者さんでは多くみられることもあり、どこのステーションでも嚥下リハビリなど盛んに行われているかと思いますが、言語障害についてはなかなか支援が行き届かないのが現状ではないでしょうか。



言語リハビリを主目的に訪問看護を利用されている方に対して、看護師が言語リハビリを行う意義は何だろうかとはじめは戸惑いもありました。しかし、原疾患や合併症をコントロールしながら、生活につながる言語リハビリをできるのは看護師の役割であると再認識し、日々勉強しながら取り組んでいます。

また閉じこもりがちになっている方も多いのですが、「自分の話を聞いてくれる人がいる」「言葉のリハビリが出来る」ということで意欲的になり、自分から話をするようになったり、活動的になっていく姿を見ると、コミュニケーションの大切さを改めて感じます。

まだまだスタッフ一同勉強の途上ですが、利用者さんの満足度やQOLの向上に大きな影響を与えるものですので、今後も継続していきたいと考えています。



東葛南部地区

―がん患者・家族総合支援センターが開設し開所式に参加しました―

さぎぬま訪問看護ステーション
長谷川芳代

厚生労働省の「がん対策のための戦略研究」の一環として「緩和ｹｱのための地域プロジェクト」として全国４箇所がモデル地域に指定されました。その研究事業のひとつに国立がんセンター東病院を中心に柏市、我孫子市、流山市の医療機関、行政機関が参加して、プロジェクトの一環として「がん患者・家族総合支援センター」を開設しました。

がんにかかわる心配（先生に何を質問すればいいだろう？治療の副作用は？セカンドオピニオンは？医療費はどのくらいかかるのか？同じ病気の患者同士で情報交換できる場所があるだろうか？こういう食べものは食べても大丈夫か？‥）は多岐にわたります。また、患者さん自身だけではなく、ご家族や友人の立場からも心配や不安な気持ちがあります。そこで、気軽に相談できる場所として柏の葉キャンパス駅前にがん患者・家族総合支援センターがつくられました。

活動内容として、

1．情報サロン
2．地域の相談窓口として２名の看護師が常駐
3．地域の患者・家族サポーターのサポート（講習会や料理講習など）

を行います。

設備も充実しており、ゆっくり相談できる個室やくつろげるラウンジもあります。こんな施設が近くにあったら・・・とうらやましくなりました。

モデル事業ですので、継続させるためにも、大いに利用しましょう。私たちの地域にも作れると良いですね。

〒277-0871　千葉県柏市若柴 226 番地 44 中央 141 街区 1
TEL　04-7137-0800
FAX　04-7137-0801
開所時間：月～金曜日　10：00～16：00

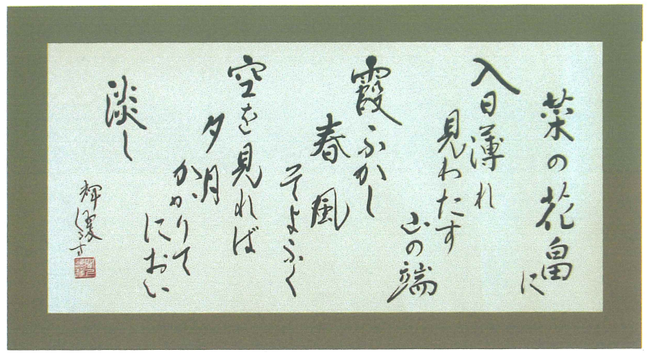
編集後記

１０月３１日はハロウィンでした。以前はあまりメジャーではなかったのですが、ここ数年急に盛んになってきましたね。

私の住む地域（ほんの一角ですが）では、子どもたちが「Trick　or Traet！！」とお菓子をもらいに回って来ました。もちろん仮装して。強制することはできませんので、参加する家の玄関ドアには目印のために紙で作ったかぼちゃが貼り付けてあります。我が家もかぼちゃを貼り付けお菓子を準備・・・。キリスト教信者ではないので形だけを真似たものですが、子どもたちの楽しそうな声が響き渡り、ウキウキ楽しい夜でした。みなさんはどんなハロウィンを過ごしましたか？

さて、今回の『菜の花』、いつもと少し違います。そう、写真が豊富なのです。イラストも華やかですが、写真はステーションやみなさんの顔を届けてくれます。とても素敵な広報になったと思います。次号でもたくさんの顔が原稿とともに届くことを期待しています。

ところで、この広報『菜の花』のロゴを書いてくださった利用者さんのご主人が、今度は『菜の花』の詩を書いてくれました。秋にはちょっと季節はずれかもしれませんが、いつも春のように暖かい千葉県訪問看護ステーション連絡協議会でありたいと思います。



『菜の花』へのご意見・ご感想、とにかく何でも結構です。投稿用紙をご利用になり、お送りいただければ幸です。デジカメでちょっと撮ってみた写真、表紙を飾るかもしれません！ご遠慮なくどしどしお送りください。もちろん投稿もお待ちしています！

●広告募集のお知らせ●

千葉県訪問看護ステーション連絡協議会では、広報に掲載する広告を募集しています。基本サイズはA6です。（実際は枠の分がありますので、もう少し小さくなります。）
詳細は広報担当者までお問い合わせください。
（投稿用紙利用可。）